
余市町橋梁長寿命化修繕計画

(概 要 版)

平成 26 年 3 月

余 市 町

1. 橋梁長寿命化修繕計画策定の背景と目的

1) 背景

余市町が管理する橋梁は現在 80 橋あるが、架設後経過年数分布を見ると、修繕計画策定時点で建設後 50 年を経過する橋は 6 橋しかないが、20 年後には、建設後 50 年以上の橋が全体の 75%にあたる 60 橋となり、急速に老朽化が進むこととなる。

また、橋梁の外部環境としては港町であることからその多くは塩害環境にあたり、外部からの塩化物イオンの供給は決して少ないとはいえない環境である。

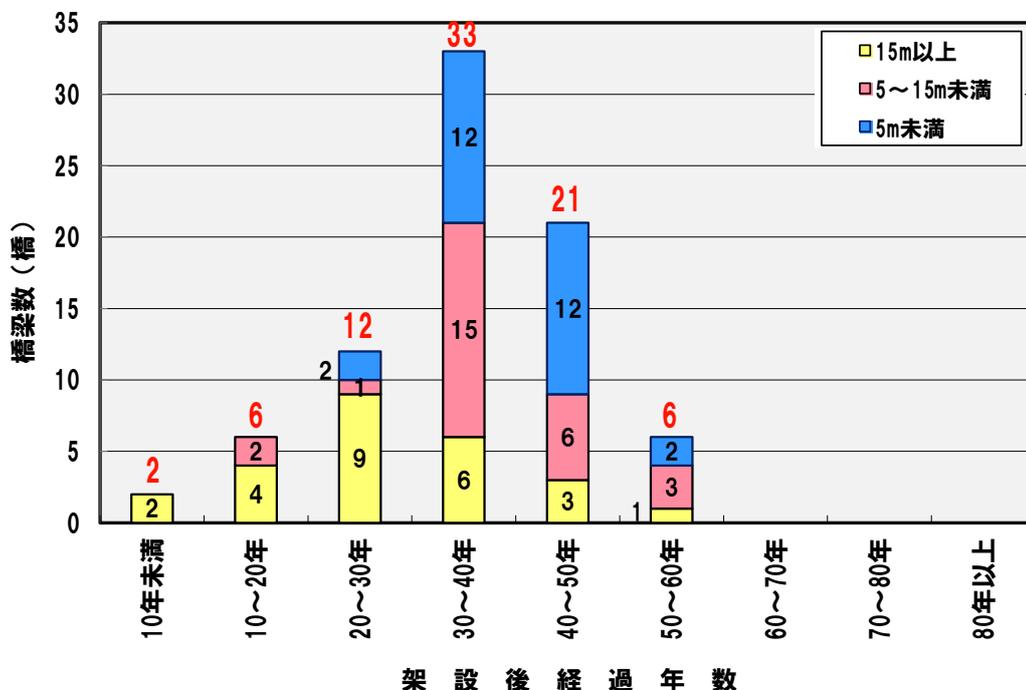


図-1 経過年数別橋梁数

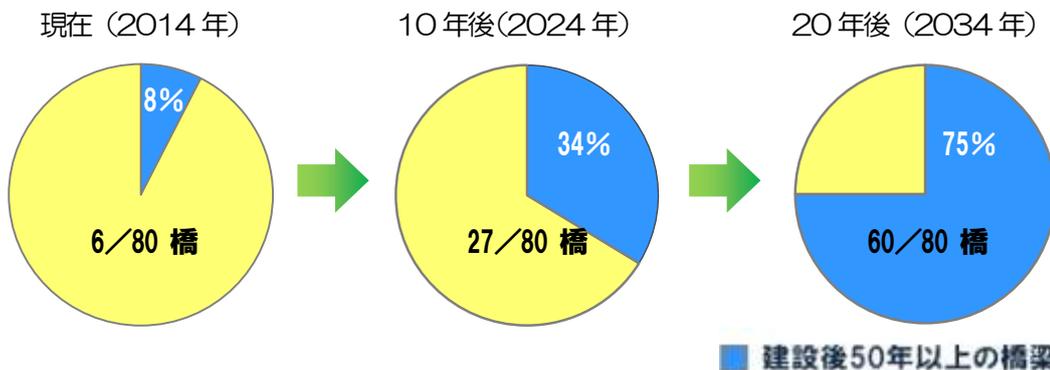


図-2 建設後 50 年以上の橋梁の割合の推移

2) 橋梁長寿命化修繕計画策定の目的

本計画は、定期点検による橋梁の状態の把握、予防的な修繕（予防保全）及び計画的な架け替えを着実に進め、橋梁の長寿命化と橋梁の修繕・架け替えに係る費用の縮減を図りつつ、重要な道路ネットワークの安全性・信頼性を確保することを目的とします。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

余市町では、平成 25 年度に管理する 80 橋の修繕計画を策定しました。

	市町村道 1級	市町村道 2級	市町村道 その他	合計
全管理橋梁数	15	20	45	80
うち計画の対象橋梁	15	20	45	80
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0
うちH25年度計画策定橋梁数	15	20	45	80

表-1 計画対象橋梁一覧

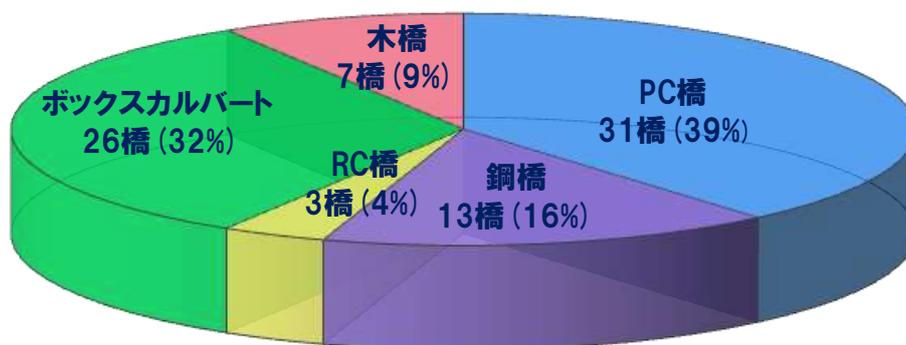


図-3 橋梁別橋梁数

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

定期的な点検（1回/5年）により橋梁の損傷状態を的確に把握します。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

- ・道路巡視パトロール時に橋梁パトロールを行い、交通機能及び第三者に影響を及ぼす損傷がないか把握し、橋梁を良好な状態に保ちます。
- ・担当職員は橋梁点検や補修に関する知識を深め、日常管理に役立てます。
- ・橋梁の軽微な損傷に対しては、簡易な処置を行い損傷進行要因の排除を行います。
 - ◆ 橋面舗装の補修を行い、内部への浸入水の遮断を行う。
 - ◆ 排水柵・伸縮継手部の堆積土砂を撤去する。
 - ◆ 高欄等の損傷・劣化防止のための塗装を行う。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

余市町の橋梁は80橋のうち約3/4以上の60橋（全体の約75%）が、20年後には建設後50年以上経過し、補修や更新時期が集中することが考えられます。

今後、急速な老朽化橋梁の増大を目前に、財政状況が厳しい中、さらに効率的で合理的な維持管理を実施していかなければなりません。

そのため、従来の対処療法的修繕および架替えによる高コストな維持管理（事後保全）から、損傷が顕在化する前に小規模な修繕を行い、橋梁の長寿命化を図る予防的な維持管理（予防保全）に転換することで、コスト縮減を図ります。

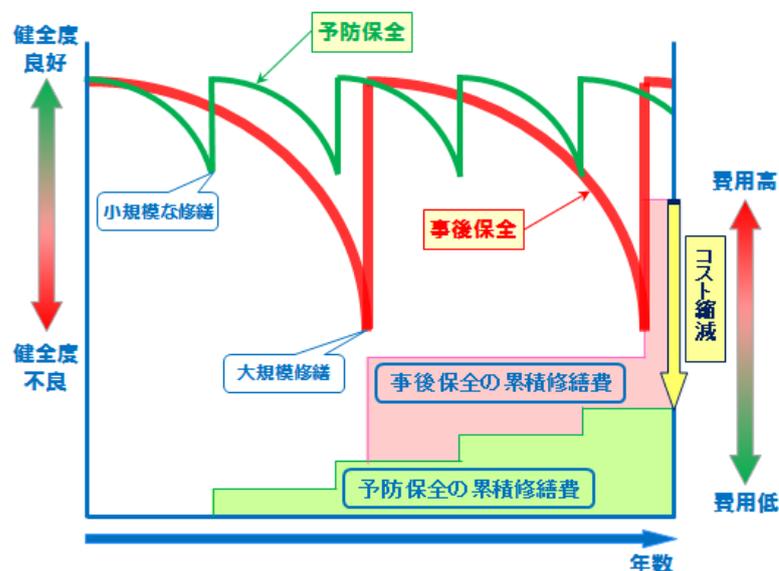


図-4 補修イメージ

5. 長寿命化修繕計画による効果

安全性の確保

定期的に点検を実施し、適切な時期に補修を行うことで交通の安全性が確保されます。5年毎の定期点検を実施します。

コスト縮減

計画的に補修を実施することで長寿命化が図られ、致命的な損傷になった段階での補修や更新（大規模補修・更新）に比べコスト縮減が図れます。

※予防保全：損傷が顕在化する前に予防保全的に対策を行うシナリオ。

※大規模補修・更新：使用できるだけ使用し、大規模補修・更新を行うシナリオ。

累計補修費

(億円)

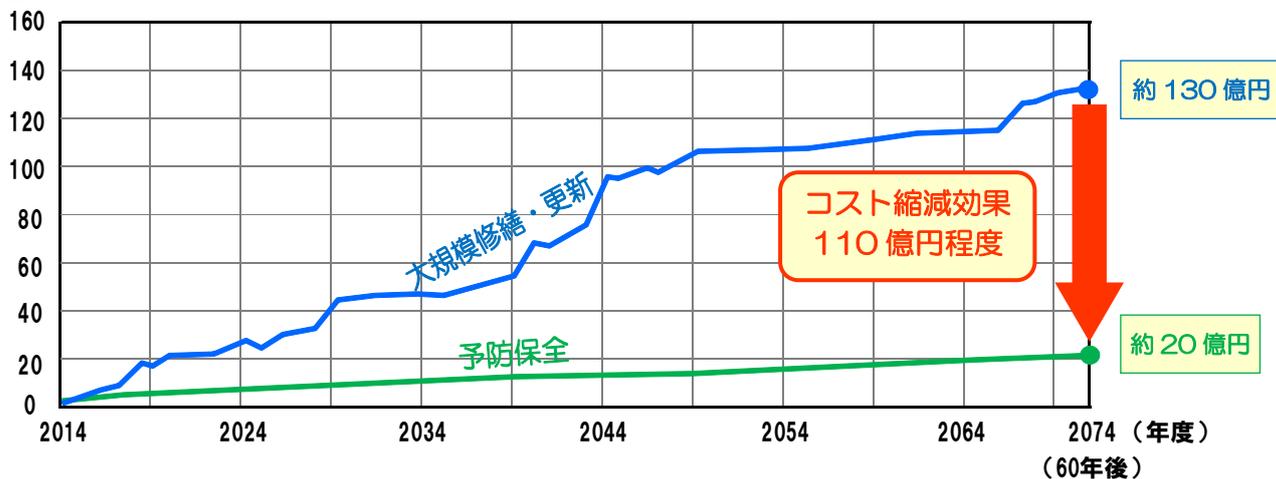


図-5 保全・更新費用の将来事業費予測

6. 修繕計画

重要度の高い路線や劣化状況の大きい橋梁等について優先的に修繕を実施します。なお、今後の予算や点検結果などにより随時見直しを行います。

7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

余市町 建設水道部建設課 Tel 0135-21-2128

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

北海学園大学 工学部社会環境工学科

教授 杉本 博之